

韓国薬学研修報告

3年 16A086

高塚菜月



8月8～11日に実施した韓国研修に参加し、特に東国大学についてまとめました。上の写真は東国大学の薬学部の様子です。理系繋がりで愛知学院大学と似た雰囲気がありました。特に、研究室の混沌とした様子はとても既視感があります。また、こちらのシャワーは、廊下の天井から下に向かって設置されているため、使用後は廊下が水浸しになってしまいそうです。しかし、このシャワーを使うような非常時に、廊下のことを気にする余裕はないので、特に問題はないそうです。



次に、薬局実習の練習部屋です。カウンターが設置され、壁には本物の薬局のようにずらりと薬のパッケージが並んでいました。端の方には発泡スチロールで作られた薬局のミニチュアがあり、これを使って患者さんが過ごしやすいように薬局の中のレイアウトを考えているそ





うです。

東国大学の薬学部は一学年 30 人ほどで、学年みんなが顔見知りとのことでした。学年当たりの人数が 150 人超えの愛知学院の薬学部と比べると、非常に少なく驚きました。

学生との交流を通し、食事をしながら韓国の薬学部事情を伺うことができました。

韓国では薬剤師免許を取るために大学で二年間一般教養を学び、その後、四年間薬学について学びます。その為、他の大学を卒業し、少し働いてから薬学部に入る人が多いそうです。これにより、今回交流した生徒さんたちは、皆年上の方ばかりでした。この、二年+四年という制度は2022年から、日本と同じ六年制に変わります。制度の変革に伴い、韓国の薬剤師にどのような変化が起こるのか興味深く感じており、今後も注視していきたいと考えています。

就職先に関して、日本では薬学部に入っても、薬剤師として働くこと以外に公務員として衛生を保ったり、MRとして企業で働いたり、選択肢がいくつかあります。しかし、韓国でそのような働き方はあまり一般的ではありませんでした。普通、街の薬局に勤め何年か働いた後自分の店を持ち独立するのが多いそうです。そのため日本と比べ、薬剤師の臨床への進出や企業への道はあまり多くはありません。

また、英語に対して要求される能力が高く、英語がないと就職が厳しくなるそうです。学校見学で

見させていただいた教科書の中には、翻訳されずに英語のままのものもあり、英語能力は就職だけではなく、普段の授業においても非常に重要であるということが分かりました。

